

図書館へいこう!



2022上半期 芥川賞・直木賞 そろえています!

芥川賞受賞

『おいしいごはんが食べられますように』

高瀬 隼子 / 著

職場でそこそこうまくやっている二谷、皆が守りたくなるような存在で料理上手な芦川、仕事ができてがんばり屋の押尾。心をざわつかせる、仕事+食べもの+恋愛小説。



直木賞受賞

『夜に星を放つ』

窪 美澄 / 著

もう何も失いたくない。でもまた人と関わりたいと思った。「真夜中のアボカド」「銀紙色のアンタレス」など、心の揺らぎが輝きを放つ全5編を収録した短編集。



話題の新着本

『そして誰もゆとらなくなった』

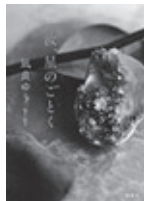
朝井 リョウ / 著

腹痛との戦い、催眠術体験、10年ぶりのダンスレッスン、引っ越しあれこれ…。一生懸命生きていたら生まれてしまったエピソード全20編を収録した、頭からっぽで楽しめるエッセイ集。



『汝、星のごとく』 凧良 ゆう / 著

瀬戸内の島に育った高校生の暁海と、自由奔放な母の恋愛に振り回され島に転校してきた櫛。ともに心に孤独と欠落を抱えた二人は、惹かれ合い、すれ違い、そして成長していき…。



『その本は』

又吉 直樹・ヨシタケ シンスケ / 著

本の好きな王様が、2人の男を城に呼び、「世界中をまわって「めずらしい本」の話を聞いてきてくれ」と言った。旅に出た2人の男は…。又吉直樹とヨシタケシンスケによる、笑えて泣けて胸を打たれる、本にまつわる物語。



『財布は踊る』 原田 ひ香 / 著

専業主婦のみづほは、夢を実現するために生活費を切り詰め、毎月2万円を貯金していた。努力が実り、夢を実現した喜びも束の間、夫に200万円以上の借金があることが発覚して…。



『終活中毒』 秋吉 理香子 / 著

残された余命はわずか。ゾッとする終活、理想的な終活、人生を賭けた終活…。4人の〈終活〉に待っていたサプライズとは? 驚愕と感動が溢れるミステリー。



『ウクライナにいたら戦争が始まった』 松岡 圭祐 / 著

単身赴任中の父と過ごすため、母・妹とともにウクライナに来た高校生の琉唯。ロシアによる侵攻が近いとのニュースが流れ、一家は自宅から出ることができないまま、町は一瞬にして戦場と化し…。凄絶な体験を描く実録的小説。



今月のBEST本 (7月の貸出回数上位本)

『カレーの時間』

寺地 はるな / 著

ゴミ屋敷のような家で祖父と暮らすことになった桐矢。カレーを囲む時間だけは打ち解ける祖父が、半世紀の間、抱えてきた秘密とは。終戦後と現在、ふたつの時代を「カレー」がつなぐ絶品“からうま”長編小説。



『名もなき子』 水野 梓 / 著

高齢者施設で不審死が相次ぐ中、「何も生み出さない高齢者は社会悪」と書かれた犯行声明が官邸とマスコミに届く。事件の奥には、この国の抱える深い闇が広がっていて…。人が人として生きるこの意味を問う社会派ミステリ。

